

宮城県が姉妹提携先のデラウェア州の高級スーパーで「宮城フェア」を開催

ニューヨーク事務所

2014 年 10 月 25 日（土）から 26 日（日）まで、宮城県は、姉妹県州を締結するデラウェア州の、現地富裕層向けの高級スーパー「ジャンセンズマーケット」において、県産品を試食販売する「宮城フェア」を開催しました。

1 「宮城フェア」実施までの経緯について

宮城県とデラウェア州は、1997 年から姉妹県州提携を締結しています。姉妹県州締結後は、中・高校生の派遣など人的交流を中心に交流を行ってきましたが、2007 年に、村井県知事がデラウェア州を訪問し、当時のミネー州知事と経済交流の促進について合意したことを受けて、近年では経済交流に力を入れています。

昨年度までは、宮城県が主体となり、県産品の紹介イベントなどを開催してきましたが、今年度は、同州では初となる、商社を通じて県産品を試食・販売する「宮城フェア」を開催することとなりました。

2 「宮城フェア」の概要について

フェアを行ったジャンセンズマーケットは、いわゆる日系スーパーではなく、現地富裕層向けのスーパーです。そのため、スーパーの顧客には、県産品の知識はありません。これに対し県は、国際交流員のアドバイスを受け、仙台味噌はクリームチーズと混ぜたディップ、白石うーめんはパスタ風にするなど、県産品を現地用にアレンジした試食品と、そのレシピを提供しながら販売しました。

また、スーパー店内には、七夕飾りを設置するとともに、宮城県のパンフレットを配布しました。多くの方は宮城県とデラウェア州が姉妹県州の関係にあることを知らず、「初めて知った」と言ってパンフレットを受け取る方もいました。フェアの最中には、県のマスコットキャラクターである「むすび丸」も登場し、子どもたちと触れ合うなど、多くの方に宮城県とデラウェア州の関係を知ってもらう機会となりました。



試食販売の様子



ジャンセンズマーケット店内に設置した
仙台七夕祭りの飾り

3 「宮城フェア」の成果と今後の展望について

販売した県産品は、完売しました。

特に、仙台味噌については、試食に対する反応や売り上げるペースが良く、スーパー側から継続的な販売の申し出を受けました。今後は、販売個数など、具体的な調整をする予定です。

今回のフェアでは、アメリカで商品売る、ということについて考えさせられました。ジャンセンズマーケットの顧客のほとんどは現地の方々であり、日本の食材にあまり馴染みはありません。このようなの方々に対して県産品をアピールする方法として、「国際交流員からアドバイスのあった「試食」と「レシピの提供」は非常に有効だと感じました。

特に、試食については、日本のものを日本で食べているように提供したとしても、日本の食材に馴染みのないの方々には受け入れられず、今回のように全品が完売するという成果にはならなかったと思います。アメリカの生活スタイルや食事にマッチングするようにアレンジして出す工夫をしたからこそ、現地の方に買っていただくことができたのだと思います。

レシピについても、具体的な食材の調理方法を提供することで、その食材をより身近に感じさせる助けになったのではないかと感じました。

今後は、今回の成果を踏まえ、商社を通じて仙台味噌を継続的に販売していくために、より具体的な調整を行っていく予定です。今後の動きを注視していきたいと思っています。



県マスコットキャラクターのむすび丸も登場



今後の県産品販売に係る打ち合わせ

(松浦所長補佐 宮城県派遣)